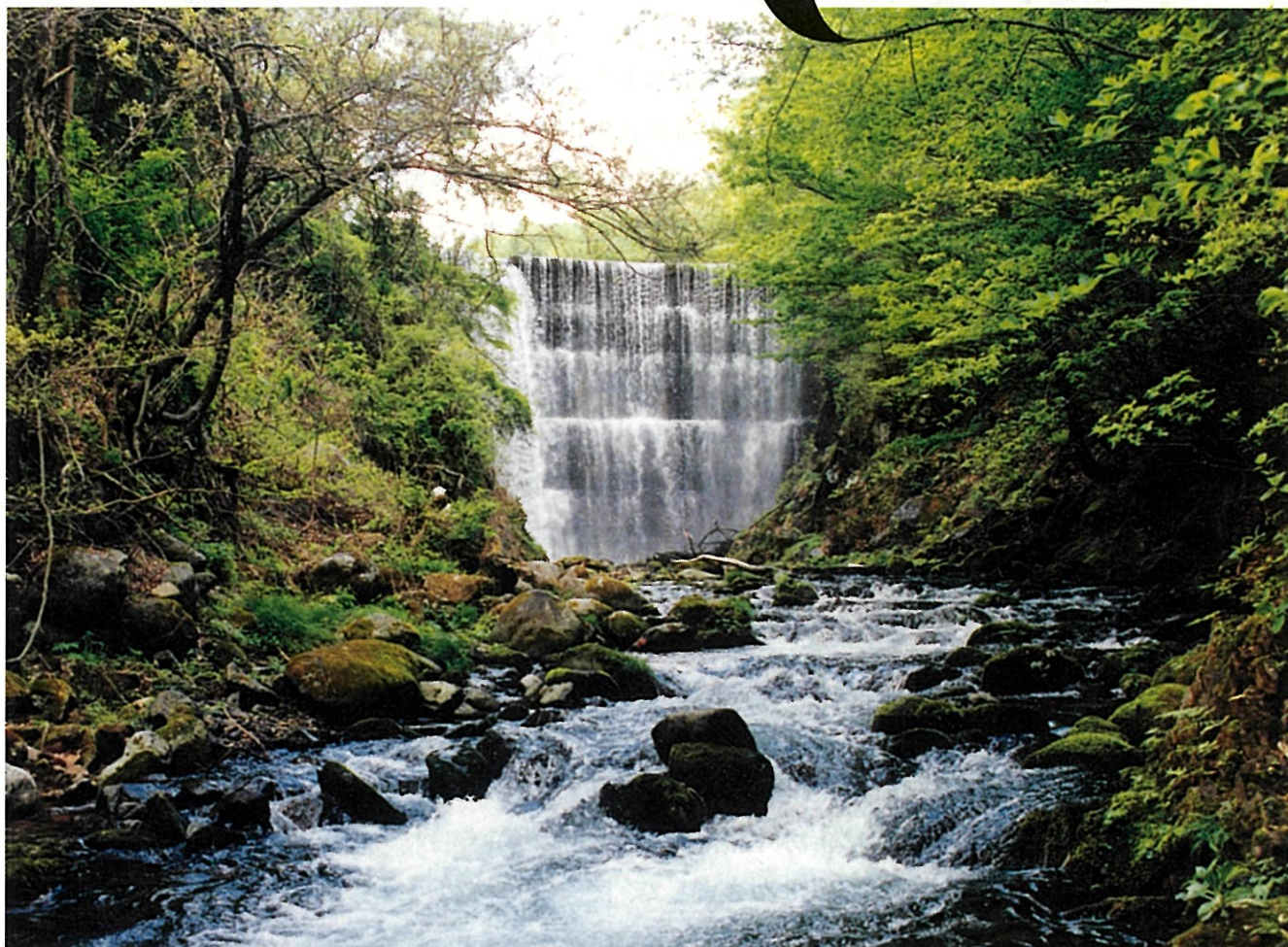


砂防 ふくしま



平成4年1月1日



砂防ダムのある溪流

福島県砂防事業の発祥の地、南会津郡田島町の秘境、加藤谷川に昭和27年建設された本県屈指の砂防ダムです。

番屋川アーチダム 高さ16米

長さ39.4米 貯砂量146,000立方米

CONTENTS

「砂防ふくしま」の発刊にあたって 会長	2
「砂防ふくしま」の発刊によせて 県土木部長	3
台風18・21号等により土砂災害各地に発生	4
治水事業5箇年計画策定総決起大会開催	6
平成4年度政府予算獲得陳情実施	7
「水と緑の砂防モデル事業」紹介	9
協会事務局から	10



平成7年開催

友よ ほんとうの空にとべ!

ふくしま国体



福島県砂防協会誌「砂防ふくしま」の 発刊にあたって

福島県砂防協会 会長 吉田 修一

福島県砂防協会誌「砂防ふくしま」の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本県の砂防関係事業につきましては、関係各位のご努力によりまして、年々その整備が図られております。

ここに、改めて心から深く感謝申し上げる次第であります。

お陰様をもちまして、広範囲にわたる土砂災害は減少の傾向にありますが、局地的に襲う災害はまだ各地で発生しております。

昨年は希にみる長雨と台風により、中通り北部を中心に土石流、地すべり、がけ崩れが発生し公共施設や人家等に多大の被害がありました。

また、近年の社会、経済の飛躍的な発展は、土地利用の高度化、多様化をもたらし、地域開発が活発に進められ、地域の発展に貢献している一方これらの開発が土砂災害をもたらす大きな要因となっております。

砂防行政は、災害から地域住民の生命と財産を守るための生活に直結した生活基盤づくりの基礎的かつ重要な行政であります。

本協会といたしましても、皆様方のご理解とご支援を得ながら砂防関係事業の確保、新規施策の実施などについて、関係機関に強く要望して来ているところであります。

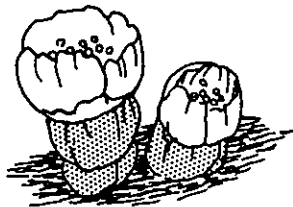
特に、本年度は国の「第8次治水事業5箇年計画」の策定年度にあたりますことから、本計画の大幅な枠の拡大と施策の充実につきまして、関係機関に対し強力に要請してまいりました。

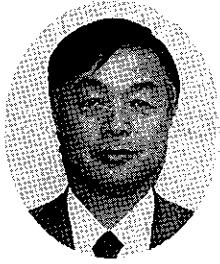
しかしながら、土砂災害の皆無を期するためには、永い年月と膨大な経費を要することから、地域住民への防災知識の普及、警戒避難体制の確立等の円滑な推進が必要となっております。

このようなことから、今回、砂防関係情報の確保、防災知識の普及等の一助となることを念願し、協会誌「砂防ふくしま」を発刊することとした次第であります。

今後とも、本誌への情報提供、ご指導、ご協力をお願い申し上げまして発刊のご挨拶といたします。

平成4年1月1日





福島県砂防協会誌「砂防 Fukushima」の 発刊によせて

福島県土木部長 益子 恵 治

このたび福島県砂防協会誌「砂防 Fukushima」が発刊されるにあたり一言お祝いを申し上げます。

毎年のように梅雨期から台風の時期にかけて日本の各地で土砂災害が発生し、尊い人命と貴重な財産が失われておりますことは、誠に残念であります。

福島県といたしましても、土砂災害から県民の皆様を守るため建設省はじめ各関係機関の絶大なご支援を賜り、鋭意対策を進めているところであります。

一口に土砂災害と申しましても、地形、地質、気象条件等により、災害を受ける程度、また発生形態など様々であります。本県は火山を含む山地が多く、地質的にも脆弱なことから、土砂災害を受けやすい条件を多分に有しております。

土砂災害は、山地が荒廃して雨とともに巨石を含む土砂が沢沿いに激しい勢いで流下する土石流、比較的緩やかな地形において数メートルの厚さで地表が緩やかに移動する地すべり、急傾斜地や崖が崩壊するがれ崩れの3つに分類することができます。

県内には現在これらの危険箇所が2300余箇所と多いことから危険度の高い箇所から計画的に対策事業を実施しておりますが、その整備率は決して高いとは申せない現状にあります。

国においては、これらの災害から国民を守るため、第8次治水事業5箇年計画（平成4年～8年）、第二次急傾斜地崩壊対策事業5箇年計画（昭和63年～平成4年）を策定して計画的にその整備を図っております。

しかしながら、これらの整備完成には永い年月と膨大な経費を要することから、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、全国的に土砂災害防止の啓発に努め、一人でも多くの皆様に土砂災害の恐ろしさ、災害防止の知識を深めていただき、いざという時に役立てていただくこととしております。

昨年は、この月間に市町村を通じて県内の危険箇所を示した地図を配布いたしましたところ、「もっと詳しく知りたい」等の関心の深いご意見をいただき、心強く感じた次第であります。

このような時に、福島県砂防協会誌「砂防 Fukushima」が発刊され、砂防関係情報、災害防止の普及啓発に努められますことは誠に時宜を得たものと心からお祝い申し上げる次第であります。

おわりに、今後とも本県の砂防行政の推進につきまして、皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成4年1月1日

台風18・21号等により土砂災害各地に発生

平成3年は、台風や例年になく秋の長雨により、県内各地において土石流、地すべりがけ崩れが発生し、県民生活に大きな影響を与えました。

被災現地をそのまま放置すると、さらに大きな災害につながる危険な箇所が多いことから、県では災害関連緊急砂防等事業により、年度内に施工、完了を目指し、対応することとしました。

各建設事務所の迅速な対応と建設省砂防部の御理解、御支援により、20箇所約13億円を12月県議会に補正予算として計上するに至りました。

各建設事務所では、年度内の工事完了を目標にがんばっております。

主な被災箇所と対応

小作沢（伊達郡川俣町）

10月9日から13日にかけての台風21号の影響による豪雨のため、2回の土石流により下流の人家、町道を直撃しましたがさいわい住民は事前に避難して無事でした。（砂防ダム1基 $H=10.0m$ $L=38.0m$ $Vc=1,380.0m^3$ ）

杉内沢（安達郡東和町）

10月9日から13日にかけての台風21号の影響による豪雨のため、発生した土石流により下流の牛舎を直撃し、牛11頭が死亡、負傷者1名を出しました。（砂防ダム1基 $H=10.0m$ $L=46.2m$ $Vc=1,634.3m^3$ ）



小作沢土石流被害状況

鰻内（福島市立子山）

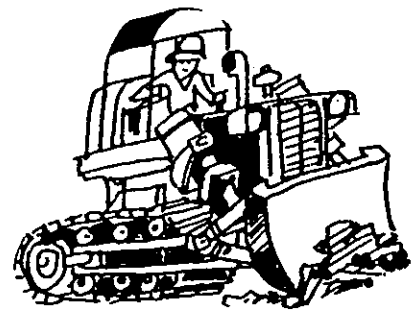
秋の長雨と10月9日から13日にかけての台風21号の影響による豪雨のため、地すべりが発生、人家が半壊し、11戸の人家に危険が迫っております。（横ボーリング 1,940m 擁壁工 245m）

竹ノ内（伊達郡月舘町）

10月7日から13日にかけての台風21号の影響による豪雨のため、がけ崩れが発生し、人家1戸が全壊しました。幸い住民は事前に避難しており無事でした。（現場打法砕工 L=50.0m A=549.8㎡）

災害関連緊急事業とは

当該年度の風水害、地震等によって土砂災害が発生し、放置すれば次期出水等により、さらに大きな被害が発生する恐れのある場合、緊急に施工を必要とし、かつ、年度内に完成が見込まれるものを対象に行われる国庫補助事業であります。今回福島県は20箇所及び箇所数としては全国でも最多県となりました。



鰻内地すべり被害状況

“21世紀へ安全な国土を引き継ごう”

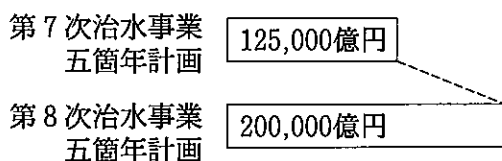
20兆円の満額確保めざして 総決起大会が行われる

砂防事業等の治水事業は、5年間単位の整備目標を立てて事業を進めており、本年度は、第7次計画（昭和63年度～平成3年度）の最終年度であります。そこで今後5年間の整備目標として、第8次治水事業五箇年計画（平成4年度～平成8年度）を策定して、全国で総額20兆円の予算の確保を要望しております。

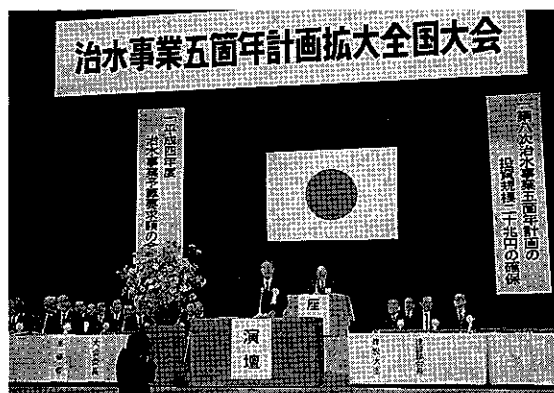
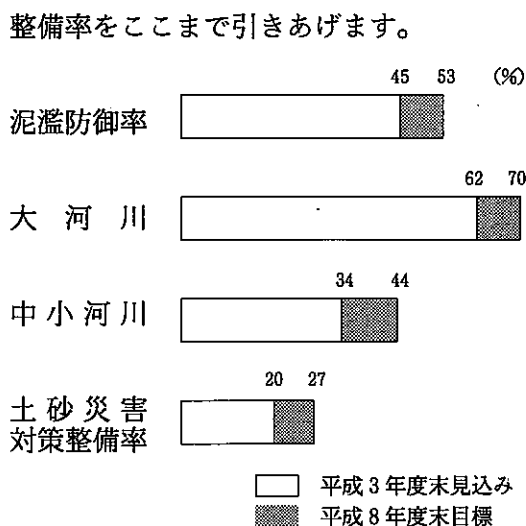
去る10月30日には、東京において「東北地方治水事業促進総決起大会」が行われ、県選出国會議員や大蔵省、建設省、自治省などに強力な働きかけをお願いしました。また、この後、日比谷公会堂において「治水事業五箇

年計画拡大全国大会」が行われ、本県からも多数の市町村長がかけつけ20兆円の満額確保に強い熱意をしめしました。本協会会長である吉田修一福島市長が全国の市町村長を代表して「ふるさとのきれいな山・川を守り、荒れくるう洪水から自分たちの生命・財産を守ろう。」と、ラグビーのように力強くスクラムを組んで満額確保できるよう訴えました。さらに大会では、「治水事業五箇年計画の投資規模の拡大」を要望する決議文を満場一致で採択し閉会しました。

全国の総投資規模



施策の基本的方向



全国大会で意見発表する福島市長

平成4年度 政府予算獲得の陳情を実施

本協会は、本年度総会において、緊急決議しました「第8次治水事業5箇年計画（平成4年度～8年度）」の積極的な投資規模の確保と内容の充実及び平成4年度砂防関係政府予算の拡大につきまして去る11月14日協会役員等により、羽田大蔵大臣、同政務・事務次官、同関係各局課長、山崎建設大臣、同政務・事務次官、河川局・課長、松下砂防部長、高

橋砂防課長、小川傾斜地保全課長、池谷土石流対策官、砂防部各課長補佐並びに県選出国會議員に対し福島県砂防の現状を説明し、善処を要望いたしました。

これに対し、皆様方から可能な限りの協力を惜しまないとの力強い言葉をいただき、今後の陳情の成果が期待されます。

陳 情 書

1. 第8次治水事業5箇年計画における大幅な事業費の確保について
2. 平成4年度砂防事業、地すべり対策事業の促進について
3. 平成4年度急傾斜地崩壊対策事業、雪崩対策事業の促進について

平成3年11月

福島県知事 佐藤 栄佐久

福島県砂防協会
会長 吉田 修一

第8次治水事業5箇年計画における 大幅な事業費の確保について

治水事業は、国土を保全し、土砂災害の防止をはかり、活力ある経済社会と安全で快適な国民生活を実現するための生活基盤の中で最も優先的に整備すべき根幹的事業であります。

特に、本県の土砂災害防止設備の整備状況は、今日、依然として低い水準にあり、これまで昭和61年8月の台風10号・平成元年8月の台風13号による災害を始めとして幾度となく大災害が発生し、尊い人命と財産が失われております。

また、高速交通体系の整備、会津フレッシュリゾート構想の推進、阿武隈地域開発計画等、土地利用形態が著しく変化する中で十分な土砂災害防止設備の立ち遅れが懸念されるところであります。

よって、政府におかれましては、平成4年度を初年度とする第8次治水事業5箇年計画を策定し、積極的な投資規模を確保され、安全で活力ある国土基盤の形成、社会経済の発展に向けての治水事業を強力に推進されるよう強く要望いたします。

平成4年度砂防事業、地すべり対策事業の促進について

本県の砂防事業推進につきましては、日頃より格別の御高配を賜り深く感謝申し上げます。

本県は、地形が急峻で地質が脆弱なうえ活火山を含む7つの火山があり、土石の流出・地すべりによる土砂災害が頻発しております。

ことに、昭和61年8月豪雨、平成元年8月台風13号、さらに本年県土を襲った数多くの台風など幾多にわたる集中豪雨により、災害は一般住居地域から山地丘陵地へと拡大するとともに、大規模になり多くの犠牲者を出しております。

このような状況から、土砂災害から県民の生命、財産を守り、豊かで住みよい県土づくりが急務となっております。

また、雲仙普賢岳の噴火災害は、数多くの活火山を有する本県においても県民に大きな不安を抱かせております。

つきましては、平成4年度予算編成にあたり、下記事項につきまして特段の御高配をお願いいたします。

記

1. 砂防事業予算の確保について

第8次治水事業5箇年計画を策定し、同計画の初年度として、通常砂防事業、火山噴火対策を含む火山砂防事業、地すべり対策事業の大幅な予算の増額を図り、積極的な土砂災害対策を推進すること。

2. 直轄砂防事業の促進について

荒川、松川、須川地域は活火山地域で大量の不安定土砂が存在しております。土砂災害から県都福島市を守るため、砂防施設の整備促進を図ること。

平成4年度急傾斜地崩壊対策事業、雪崩対策事業の促進について

本県は、地形が急峻で地質が脆弱なため、土砂災害危険箇所が多く、さらに近年都市化や地域開発が進み、がけ崩れ災害の受けやすい地域の範囲が広がっております。

本年も県土を襲った数多くの台風は、これらの箇所に大きな被害をもたらし、県民生活に重大な影響を与えております。

また、本県の豪雪地帯であります会津地方は雪崩による被害が多く発生しております。

このため、がけ崩れや雪崩による災害から県民の生命、財産を守り、豊かで住みよい県土づくりに積極的に取り組んでいるところであります。

つきましては、平成4年度予算編成にあたり、下記事項について特段の御高配をお願いいたします。

記

1. 急傾斜地崩壊対策事業の促進について

第2次急傾斜地崩壊対策事業5箇年計画の最終年度として、急傾斜地の崩壊による災害を防止するため、大幅な予算の増額を図ること。

2. 雪崩対策事業の促進について

雪崩対策につきましては、県民の生活基盤を支えるうえで根幹をなす事業であり、計画的な整備促進をすすめるため、大幅な予算の増額を図ること。

水と緑の砂防モデル事業

「水とのふれあいさぼうひろば」

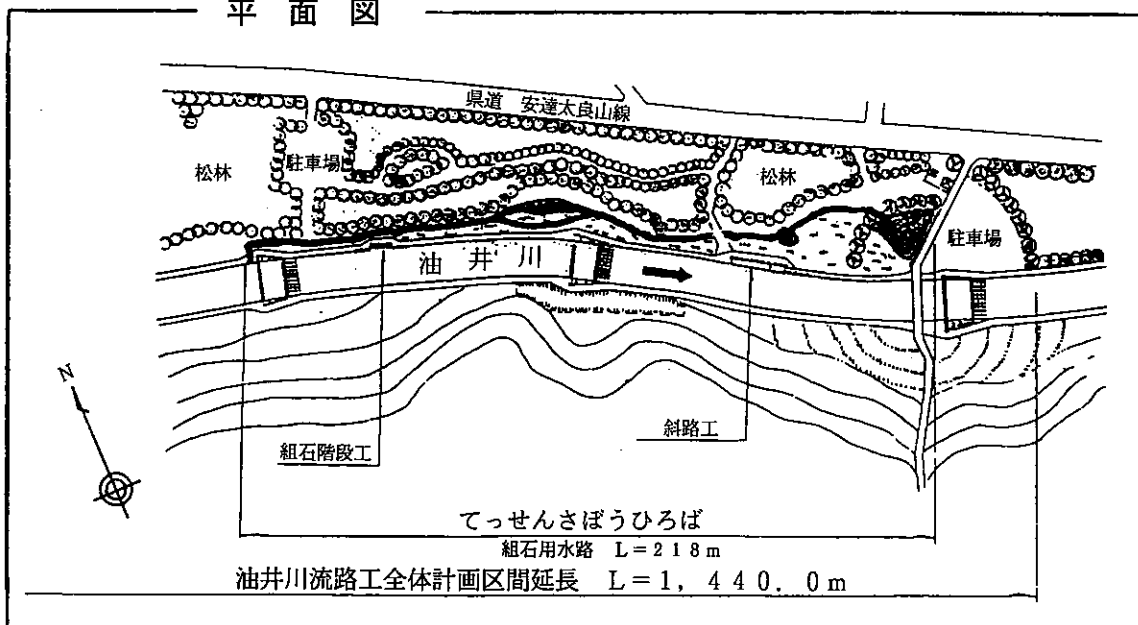
～油井川流路工～ 福島県二本松市

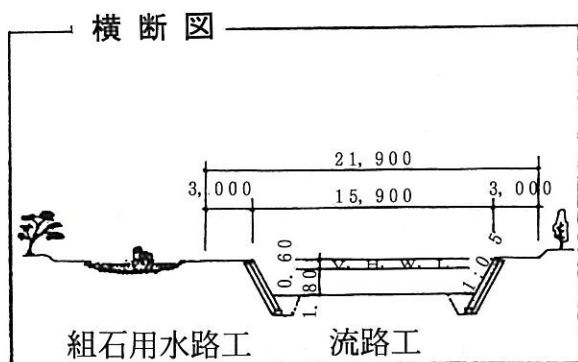


(注)全国治水砂防協会主催により、平成3年5月30日～5月31日山形県天童市に於いて、北海道・東北ブロック市町村職員砂防研修会が開催されました。この研修会は、市町村職員の方々に砂防事業への理解と協力を得る目的で昭和63年から開催されています。

この研修会で二本松市建設部土木課長宮島功氏が、油井川の「水と緑の砂防モデル事業」について発表しましたので紹介します。

平面図





溪流名	油井川（1級阿武隈川水系）
事業名	火山砂防事業
所在地	二本松市鉄扇町
工種	流路工
流域面積	A=12.5km ²
最大洪水流量	Q=12.6m ³ /s
全体計画	H=2.4m L=1,440m A=10,029m ²
全体事業費	650百万円
着工完成年度	昭和62年度～平成5年度

油井川は、安達太良山山系を源流として二本松市の北西部を流れて阿武隈川に流入する溪流であり、古くから清らかな溪流として地域住民から親しまれてきました。しかし、異常豪雨時等には土石流による甚大な被害を被ってきました。

流路工計画にあたっては、河川の特性を考慮し、法線の是正から生じた旧河川敷を水とのふれあいの広場として活用することとしました。

広場内には、河川の転石を現地採取して施

工した粗石づくりの用水路があり、せせらぎの中で幼児でも十分に水遊びが楽しめる計画となっています。

このため、多くの住民が散策や芋煮会等に訪れ、小学校や幼稚園の児童も野外活動に利用しています。

二本松市も、この広場の施設の充実を図るため平成3年度公衆トイレと給水設備の予算を計上しています。今後も駐車場、遊具の設置、隣接する林の中の散策路等の整備を予定しています。

砂防協会役員改選結果について

平成3年度通常総会は6月10日午後1時から福島市の杉妻会館で開催し、78人の市町村長と関係者ら合わせて120人が出席、盛会のうちに終了しました。

選任された役員は2年間の任期で次のとおりです。

▽会長＝吉田修一（福島市長・新）▽副会長＝伊藤備文（本宮町長・新）岡部富夫（古殿町長・再）藤田満寿恵（棚倉町長・再）佐藤長雄（三島町長・新）岩城光英（いわき市長・再）吉野正芳（県議・新）益子恵治（県土木部長・再）▽理事＝半澤栄一郎（月舘町長・再）青木久（郡山市長・再）高木博（須

賀川市長・再）渡辺唯一郎（都路村長・再）今井英二（白河市長・再）菊地国雄（西郷村長・再）佐藤光信（猪苗代町長・再）山内日出夫（会津若松市長・再）桜木左久雄（下郷村長・新）五十嵐昭元（南郷村長・再）今野繁（相馬市長・再）根本重信（広野町長・再）▽監事＝吉田昭一（山都町長・再）星勝夫（桧枝岐村長・再）



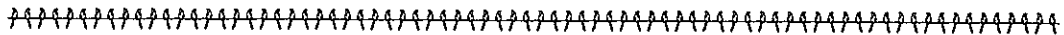
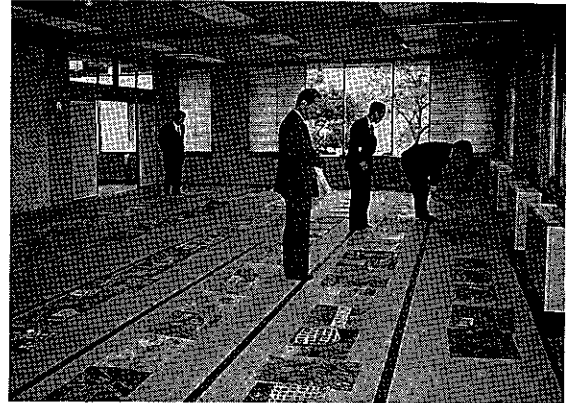
土砂災害防止に関する絵画・ ポスター・作文の県代表決まる

平成3年6月から10月まで、建設省と各県が募集していたポスター等の応募作品119点について11月5日午前、杉妻会館で、県二階堂土木部次長、橋本砂防課長、県北教育事務所久間木指導主事他の審査員による審査の結果、県代表として建設省に送られました。

県代表は次のとおりです。

▽絵画の部=小学生・菊地亮平（会津若松市立城北小学校6年）▽ポスターの部=小学生・佐藤昌子（埴町立那倉小学校6年）、中学生・

佐藤正博（鹿島町立鹿島中学校2年）▽作文の部=小学生・渡辺貴廣（二本松市立岳小学校5年）



岐阜県砂防協会が 福島県の砂防施設を視察

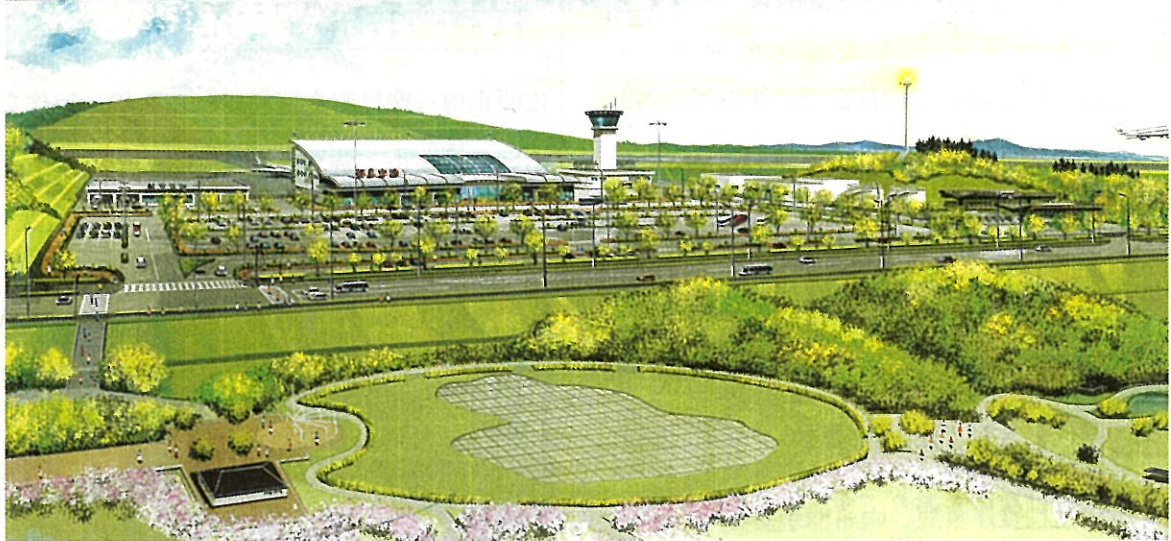


岐阜県砂防協会会長矢澤鐘三氏、岐阜県砂防課長坂井弘道氏ら18名が来県し、水と緑の砂防事業として平成2年度に完成した二本松市油井川流路工を視察しました。

油井川流路工については、本誌9頁に掲載しておりますので御参照ください。

FUKUSHIMA AIRPORT OPENS ON MARCH 1993

福島空港 1993年3月 開港

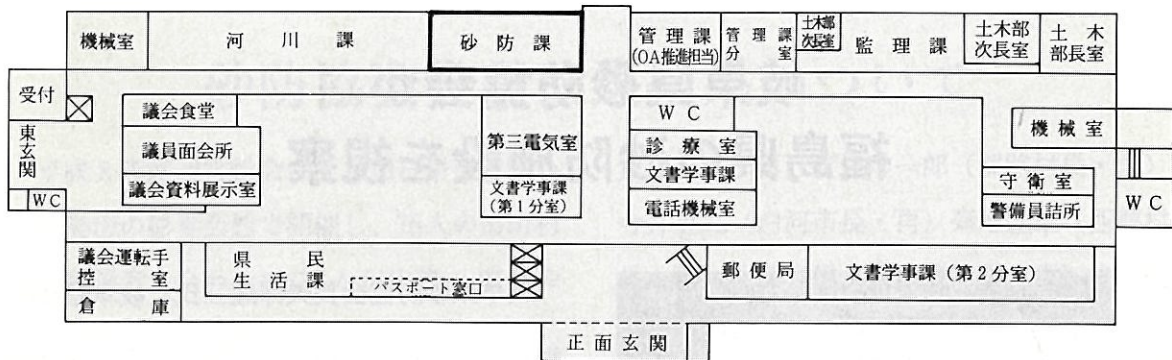


福島空港ターミナル地区完成予想図

県砂防協会事務局が移転

福島建設事務所の東分庁舎移転に伴い、土木部も一部の課を除いて移動。平成3年11月25日砂防課が前道路維持課跡に移動したことにより、砂防協会事務局も移動しました。前の室よりも広々としましたので、県庁にお越しの節は是非お立ち寄り下さい。

本庁舎1階



編集後記

福島県砂防協会は砂防関係事業のPRに積極的に取り組む必要があることから機関誌を発行することとし、本年度通常総会で了承され、第1号の発行となりました。

この機関誌「砂防ふくしま」は、

年3回、5月1日、7月1日、1月1日の発行を予定しております。

県民の皆様へ砂防行政の重要性や土砂災害に対する認識を深めていただくため、読者の皆様方から情報の提供や、執筆についてよろしくお願いたします。

発行／福島県砂防協会 ☎960 福島市杉妻町2-16 福島県土木部砂防課内
TEL 0245-(21) 1111
印刷／陽光社印刷株式会社